

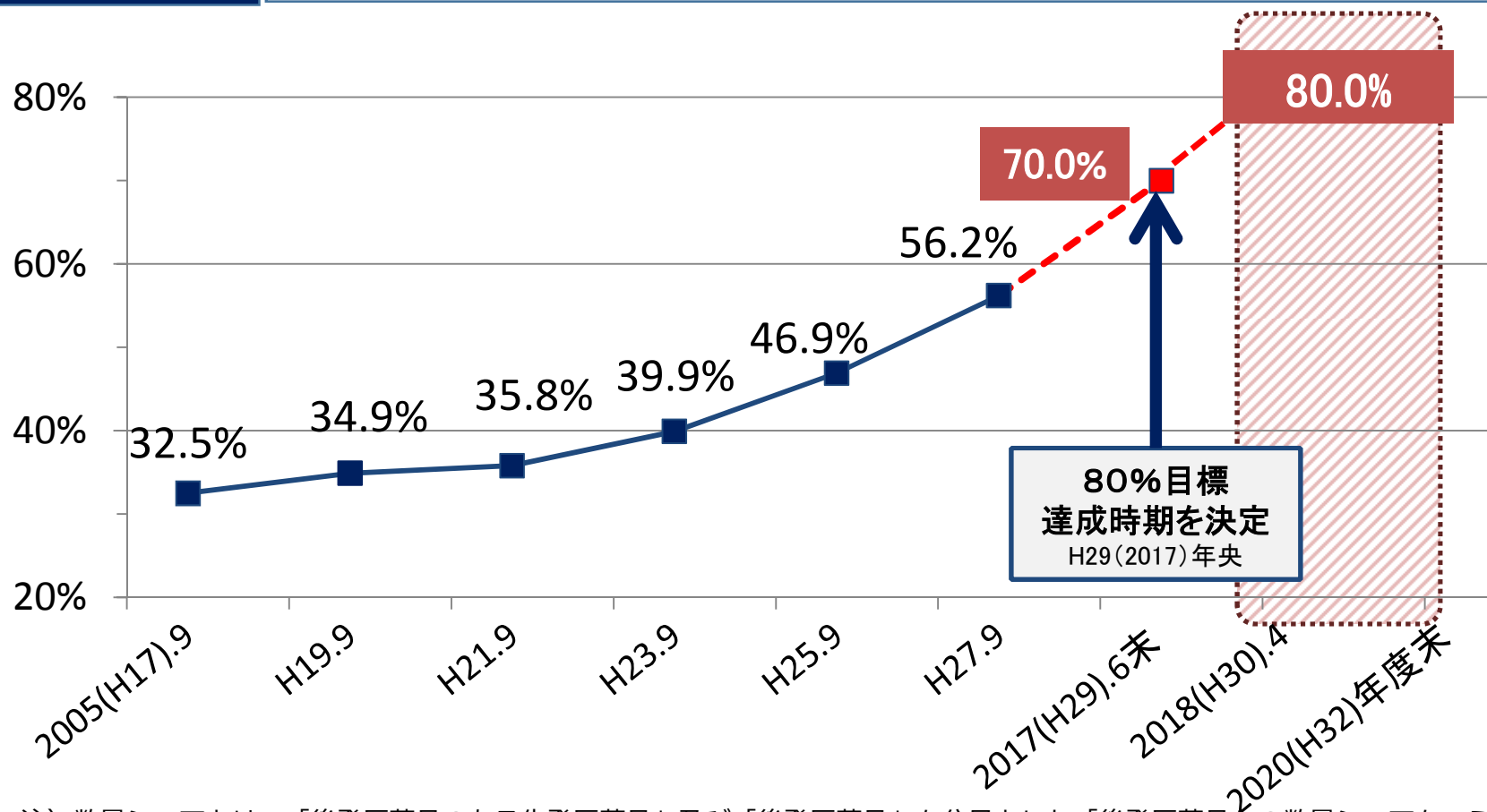
# 後発医薬品の数量シェアの推移と目標値

中医協 検-2-2参考  
29.2.22

## ➤ 経済財政運営と改革の基本方針2015

### 数量シェア 目標

- ① 2017年（平成29年）央に**70%以上**
- ② 2018年度（平成30年度）から2020年度（平成32年度）末までの間のなるべく早い時期に**80%以上**



注) 数量シェアとは、「後発医薬品のある先発医薬品」及び「後発医薬品」を分母とした「後発医薬品」の数量シェアをいう

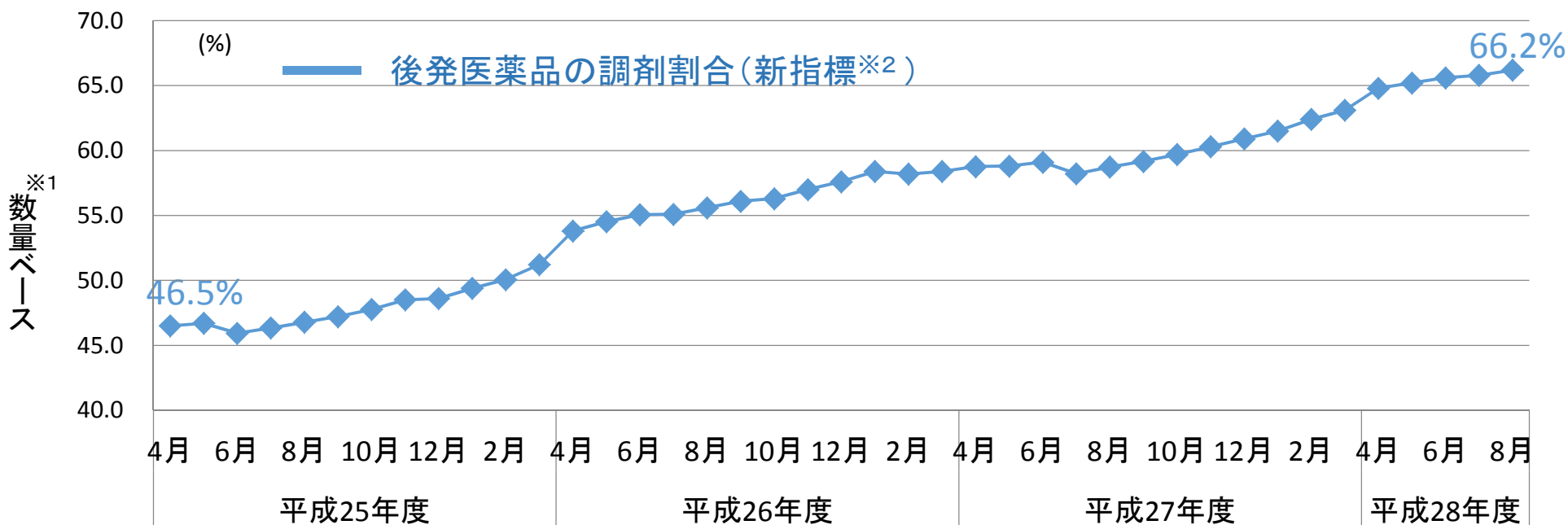
# 後発医薬品の使用促進等について①

## 薬局における取組の評価

- 後発医薬品調剤体制加算の要件について、数量ベースでの後発医薬品の調剤割合が65%以上及び75%以上の2段階の評価に改めることとする。

| 現行                            | 改定後                                    |
|-------------------------------|--|
| 後発医薬品調剤体制加算1(調剤数量割合55%以上) 18点 | 後発医薬品調剤体制加算1(調剤数量割合 <b>65%</b> 以上) 18点 |
| 後発医薬品調剤体制加算2(調剤数量割合65%以上) 22点 | 後発医薬品調剤体制加算2(調剤数量割合 <b>75%</b> 以上) 22点 |

## ➤ 薬局における後発医薬品の数量シェア



〔出典〕「最近の調剤医療費(電算処理分)の動向」

※1:「数量」とは、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えた数量をいう。

※2:「新指標」=〔後発医薬品の数量〕/〔(後発医薬品のある先発医薬品の数量)+(後発医薬品の数量)〕(「後発医薬品のさらなる使用促進のためのロードマップ」で定められた目標に用いた指標)。

## 後発医薬品の使用促進等について②

### 後発医薬品使用体制加算の指標の見直し【医科】

- 後発医薬品使用体制加算（入院初日に加算）における後発医薬品の割合に、「後発医薬品の更なる使用促進のためのロードマップ」で示された新指標を用いるとともに、後発医薬品使用率の向上に伴う基準の見直しを行う。

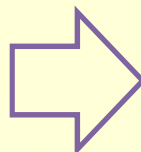
#### 現行

|                         |     |
|-------------------------|-----|
| 後発医薬品使用体制加算1（旧指標で30%以上） | 35点 |
| 後発医薬品使用体制加算2（旧指標で20%以上） | 28点 |

#### 旧指標

後発医薬品の採用品目数

全医薬品の採用品目数



#### 改定後

|                         |     |
|-------------------------|-----|
| 後発医薬品使用体制加算1（新指標で70%以上） | 42点 |
| 後発医薬品使用体制加算2（新指標で60%以上） | 35点 |
| 後発医薬品使用体制加算3（新指標で50%以上） | 28点 |

#### 新指標

後発医薬品の数量

後発医薬品あり先発医薬品 + 後発医薬品の数量

### 診療所における後発医薬品使用体制の評価【医科】

- 後発医薬品の更なる使用促進を図る観点から、院内処方を行っている診療所であって、後発医薬品の使用割合の高い診療所について、後発医薬品の使用体制に係る評価を新設する。

#### 処方料

|     |                       |    |
|-----|-----------------------|----|
| (新) | 外来後発医薬品使用体制加算1（70%以上） | 4点 |
|     | 加算2（60%以上）            | 3点 |

#### 【施設基準】

- ① 薬剤部門又は薬剤師が後発医薬品の品質、安全性、安定供給体制等の情報を収集・評価し、その結果を踏まえ、後発医薬品の使用を決定する体制が整備された診療所であること。
- ② 当該医療機関において調剤した後発医薬品のある先発医薬品及び後発医薬品について、当該薬剤を合算した使用薬剤の規格単位数量に占める後発医薬品の規格単位数量が、外来後発医薬品使用体制加算1にあつては70%以上、外来後発医薬品使用体制加算2にあつては60%以上であること。
- ③ 当該医療機関において調剤した薬剤の規格単位数量に占める後発医薬品のある先発医薬品及び後発医薬品を合算した規格単位数量の割合が50%以上であること。
- ④ 後発医薬品の使用に積極的に取り組んでいる旨を当該保険医療機関の受付及び支払窓口等の見やすい場所に掲示していること。

## 後発医薬品の使用促進等について③

### 一般名処方加算の見直し【医科】

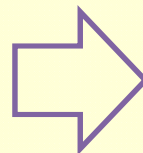
- 後発医薬品の更なる使用促進を図るため、後発医薬品が存在する全ての医薬品を一般名で処方している場合の評価を新設する。

#### 現行

一般名処方加算 2点

[算定要件]

交付した処方せんに1品目でも一般名処方が含まれている場合に算定する。



#### 改定後

一般名処方加算1 3点

一般名処方加算2 2点

[算定要件]

交付した処方せんに1品目でも一般名処方が含まれている場合には加算2を、**後発医薬品が存在する全ての医薬品が一般名処方されている場合には加算1を算定する。**

### 後発医薬品の銘柄を指定して処方する際の取扱い【医科】

- 処方時に後発医薬品の銘柄を記載した上で変更不可とする場合には、処方せんにその理由を記載する。

## 後発医薬品の使用促進等について④

### DPC対象病院（機能評価係数Ⅱの各項目の見直し）

➤ 保険診療指数、カバー率指数、地域医療指数、**後発医薬品指数について必要な見直しを行う。**

①保険診療指数（全医療機関に1点が与えられた上で、各評価項目に応じて加点・減点を行う。）

|         |   |
|---------|---|
| 0.05点加点 | <ul style="list-style-type: none"> <li>適切な保険診療の普及のための教育に向けた取組の評価（Ⅰ群のみ）</li> <li><u>病院情報の公表（平成29年度より）</u></li> </ul>   |
| 0.05点減点 | <ul style="list-style-type: none"> <li>適切なDPCデータの提出（様式間の記載矛盾による評価）</li> <li>適切な傷病名コードによるレセプトの請求</li> <li><u>本院よりも機能が高い（※）分院（DPC対象病院）を持つ大学病院本院（Ⅰ群のみ）</u><br/>           ※ Ⅱ群病院の選定にかかる各実績要件の9項目のうち、5項目以上において、分院が本院上回っている場合</li> <li><u>Ⅱ群の実績要件決定の際に外れ値に該当した大学病院本院（Ⅰ群のみ）</u></li> <li><u>精神病床を備えていない又は医療保護入院もしくは措置入院の実績のない大学病院本院及びⅡ群病院（Ⅰ群・Ⅱ群）</u></li> </ul> |

④カバー率指数

- Ⅲ群においては、最低値・最小値を30%tile値とする。  
 ✓ 専門病院・専門診療機能に一定の配慮を残した上で、機能がより反映されるように評価方法を変更する。

⑥地域医療指数

- 地域がん登録に関する評価を廃止（平成29年度より）
- 高度・先進的な医療の提供体制に対する評価項目を追加（平成29年度より）

⑦後発医薬品指数

- 評価上限を70%とする。  
 ✓ 政府目標である70%へ評価上限を引き上げ。